

### 家庭教育学級の修了して

土屋ゆき子

私が家庭教育学級で学び始めたのは下の子が一年生の時でした。その頃南条小学校にこの学級が出来たので、最初に話を聞いた時は内容がどのような学級なのかよく分かりませんでした。何回か出席しているうちに楽しくなり、なるべく出席するように心掛けました。思い起してみますと、お寿司作りの講習、講演会、映画鑑賞をしたり、史跡めぐりなどの数々です。その他十二月に習ったお正月の花教室は自分にとって特に楽しみの一つでした。

普段忘れていたり、知らなかった事などを勉強出来た事です。主婦としてはなかなか読書をしたり、勉強する機会が少ないので、二年間の学習はとても有意義で楽しかったと感じています。

今年の二月光町公民館で修了証を頂いた時はなぜか二年間が早く思えて、更に勉強したい気持ちの名残り惜しさと充実感も味わいました。今迄の学習から母親としても、習得した教訓は教養ともなり日常生活の中で不図役立って生かされているように思いました。これからは学んだ事を活用していきたいと思っています。

家庭教育学級に御尽力下さっております諸先

生方、役員の皆様には敬意を表しております。今後増々御発展して行く事を期待しております。

現在に至って思うと、丁度一年の母親だったので、二年間勉強出来た事と自負しています。

### 南条音頭

一、川の流れに影映す

あの日々は城の跡

時は流れて世は移る

忍ぶ昔も懐しや

ソレ南条良い村歴史は長い

二、上の台から眺むれば

見渡す限り野菜畑

レンゲ、タンポポ、蝶も舞う

富士も筑波も春霞み

ソレ南条良い村田畑は実る

三、小田部・芝崎・小川台

富下・虫生・台・母子

若梅・傍示戸どこみても

続く田んぼは黄金いろ

ソレ南条良い村栄えてゆくよ

### 役員の名前

運営委員長	伊藤 実
級長	飯島紀美子
副級長	飯島紀美子
1.	深田 久子
2.	片岡 永子
3.	霞 万紀子
4.	佐久間ふみ子
5.	山崎 幸子
6.	土屋 良子
7.	伊能 政江
8.	加瀬あき子
9.	伊藤ゆり子
	斉藤 政江

### 編集後記

この文集にあたり学級だよりと名をつけたが何か皆さんから名前をつけていたいただきたいと思しますので、良い題名をお寄せ下さい。たくさんのお応募お待ち致しております。



# 小家庭学級だより

創刊号

## 「家庭教育学級だより」の発刊に当って

小川 章 雄

地球上 いたる処の出来事が居ながらにして瞬時に私達の目や耳に入る一方社会・人情をおもしろく、おもしろく諷刺して私達の感覚を刺激する週刊誌。雑誌は巷間に溢れ出てとどまるどころがない。

反面、私達の身のまわりの事についてはどうであろうか、有線・電話の普及と他人なみの文化生活？の確保維持向上資金獲得のため出稼ぎ・共働きの生活を余儀なくされてしまっている。

地域社会恰好の交流の場であった井戸端会議(門口・農道・庭先)や農作業の雨間々々の機会も遂々粗速となり、顔を合わせ膝をつき合わせての話し合いは極端に少なくなって複雑化された社会機構・組織の中の単なる歯車の一つになりきってしまった。

出生から今日まで人はそれぞれに違った環境のもと、経験も千差万別である。したがって一つの事像に対して抱く感情や考え方も全

く途中で思わぬ考え方や行動の相違に気付くことが時々ある。

同じ世代に生を受け同志同行の私達それぞれが楽しみや喜び・悩みや苦しみを語り合える。戦争は科学の進歩を早める」という言葉を聞いたことがあるが、世は原子時代、過去の一〇年は今日の一年、或いはそれ以上短いものとなってしまっている。家庭教育学級の推進により目に新たな知識・技能を身につける一方、一人ひとり之にどう対処していったらよいか考えなければならぬ時である。

この四ページの「学級だより」を通して意志の疎通をはかるようにしてゆきたいものである。

くこれと同じである。丁度、サングラフをしていようなものではないだろうか。

何の抵抗もなく話し合いを進めて行く。同じ世代に生を受け同志同行の私達それぞれが楽しみや喜び・悩みや苦しみを語り合える。戦争は科学の進歩を早める」という言葉を聞いたことがあるが、世は原子時代、過去の一〇年は今日の一年、或いはそれ以上短いものとなってしまっている。家庭教育学級の推進により目に新たな知識・技能を身につける一方、一人ひとり之にどう対処していったらよいか考えなければならぬ時である。

この四ページの「学級だより」を通して意志の疎通をはかるようにしてゆきたいものである。

### 学校教育と家庭教育

PTA会長 伊藤 實

私たちは、いつの間にか「教育」といえばそれは学校の教育とか、子どもの勉強のこととか思うようになってきた。

しかし、それは大きな誤りである。教育には学校で行う教育もあれば、社会に出てから職場で受ける教育もあり、また家庭という人間の生活の基礎の場でも与えられない教育もある。家庭でなければならぬ、しかもだれでもできる教育というのは、学校の先生のまねをすることはなく、「その家庭でしか」できない教育をすることである。それは主として、躰や礼儀作法、そして、親の生活のなかで、大切だと思われる考え方や生活技術を、身につけさせるといふことである。

「学校でしか」できない教育とは、その一集団のなかで個人がしっかりと力を伸ばしたり、協調したりする能力は学校を除いては、どこでも教えてくれない。

これからの社会は科学や技術がますます発達し複雑になってくる。勉強好きな態度と、それができるような学習方法をみっちり身につけた子どもは、しあわせである。その第三はそれらの力のもとになる基礎的な学力をつけてくれることである。

PTAというのは親と先生が話し合いながら、この問題は家庭が責任を持とう「このことは学校で、もっと力を入れよう」と、お互いに心のあった真の協力があってこそ教育の成果が期待できるのだと思います。

